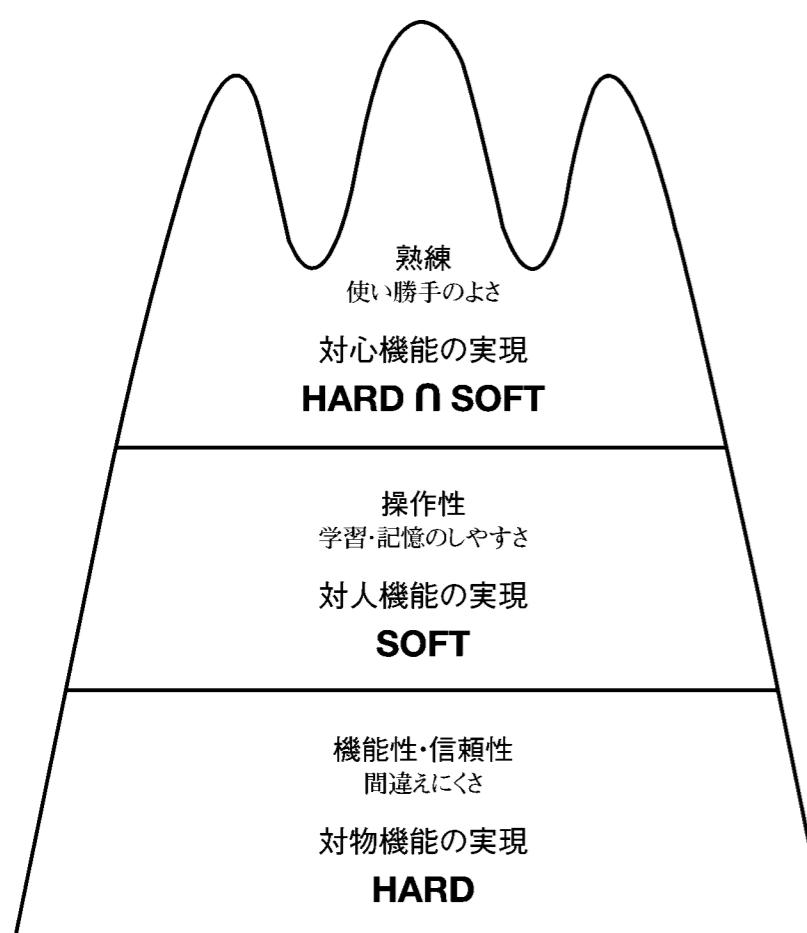


生産性向上を実現

優れたGUIを実現するためのヒエラルキー



工業デザイン

機械工業デザイン賞
専門審査委員代表
千葉大学大学院 教授

青木 弘行



機械工業デザイン賞は各時代を象徴する工ボックメーリングな製品を数多く顕彰し、今年で41回目を迎えた。金融不安に端を発する未曾有の大不況や急速な円高により正念場を迎えていた中、今回の応募は前回と比較して約7割と減少に転じた。しかしながら、内容は例年以上に質の高い製品で網羅されており、少數精緻ともいえる状況を呈していた。今回の受賞製品を総括してみると、高機能・高性能・高品質なハイエンド指向というよりは、生産性向上を実現した高付加価値製品を低価格で提供し、市場展開を図ろうとするケース、いわゆる不況下における攻めの開発姿勢が端的に現れていた。ハードではなくソフトとしての操作性に注力した製品が約8割を占めたことが、如実に物語っている。以下に講評を兼ねて私見述べてみたい。

GUIにおける機能表現とサービス

ハードとしてのコンピューター処理技術やソフトとしての情報処理能力の急激な進歩・発展を背景として、大部分の生産財はコンピューター制御により稼働している。しかししながら、一方では従来目で見て直接確認できていたメカニズムがフラット化されたりして、ユーチュアリティ（使いやすさ）は過去の機種とは比べものにならないくらい向上してきている。

いる。最先端の機能を代わる。しかししながら、一方では従来目で見て直接確認できていたメカニズムがフラット化されたりして、ユーチュアリティ（使いやすさ）は過去の機種とは比べものにならないくらい向上してきている。

この手法は「インタラク

ションシステム」によるものである。

この手法は「インタラク

ションシステム」によるものである。